

お客様の想いを より良いカタチに！

有限会社 TOMORROW

取締役 田中孝さん

住所…大川市大字鬼古賀315
TEL…094418716779
FAX…094418716779

今月の夢追い人は有限会社 TOMORROWの田中さんにお話を伺いました。

(有) TOMORROWは2016年に創業され、今年で5年目のこと。では会社では、どういった事業をされているのでしょうか。
「私個人としては、インテリアデザイナーとして商業施設や住空間の設計・デザインが主なキャリアになります。会社としては、建設工事まで請け負っていたので、住宅や店舗を設計から施工までしていました。今は私一人なので、なかなかそこまですることは難しいですが、他にもパンフレットやカタログの印刷物、WEBサイトや会社のロゴマークなどのグラフィックデザインなども行っています。

大川市内でも私が作成したロゴマークを使用してくださっている企業さんがいくつかあります」

現在は家具メーカーや建材メーカーと顧問契約を結んで、商品開発やブランディングにも携わっているとのこと。デザイナーとして様々な企業、仕事に関わられている田中さん。なぜ大川で事業を始めたのでしょうか。
「もともと、百貨店や複合商業施設の店舗設計・施工まで行う大きな会社と個人事業のように随意契約を結び、一人のデザイナーとして携わりながら東京の美術大学に通ってました。二足の草鞋で、仕事と勉学に励んでいましたが体を壊してしまい、福岡市博多区にあった会社を辞め、地

元である大川に戻ってきて、今に至ります。デザイナーとしては、十年以上活動していますね。専門学校を卒業して仕事をやる中で、改めて美術大学で学びたかったこともあり、どこかの企業に属するのではなく、学びながらフリーのデザイナーとして活動していました。ずっとそうだったわけではなく、内装施工業の会社員として勤務したり、コンサルテイングの会社にいたこともあり。そこで培った技術や知識も現在に役立っていますね」

デザイナーというお仕事についてお話を伺いました。「デザイナーは、例えると医者のようなもので、診断して、この人には薬が必要、外科手術が必要などを判断して、健





田中さんがデザインしたマルシェキット



田中さんが携わられた家具販売店

全な方向に持っていく。デザイナーも同じで、状況や状態を把握し診断して、どういうことをすれば物事が良い方向に進むのかをクリエイティブやデザインの手法で問題解決

していく仕事だと思っています。この診断のときに必要なのは質の高いコミュニケーション。風邪だと思つて来られた患者さんが、しつかりと話をし診断していくと実は肺炎をこじらせていたとか、そういうこともあると思うんですが、私の仕事もそれに似ています。まずはじっくりとお話をし、分析していく。お客様の会社を深く知ること、より良いものを作り出すように心がけています。言われたとおりに仕事をこなすのではなく、間違っていることはきちんと間違っていると伝える関係でありたいです。お客様と向かい合つて仕事をするのでなく、同じ方向を向いて、私も当事者として携わってほしいという思いもありますね。デザイナーの仕事はどちらかといえば裏方だし、お客様が表に出なさやいけません。ただ、以前まではデザイナーは黒子に徹するような仕事だと思つていました。つい最近まではデザイナーとして名前前に出して売れることは違うなと思つていま

したが、最近では顧問契約させて頂いている企業の方々に対して『自分が有名なデザイナーだったから、少しはお客様の為になつてたかもしれないな』とも思ひ始めました。有名な方だとあの人のデザインだからというだけで売れるということは現実にあつたりします。だから、もし私の仕事を知つてもらつて、信頼感みたいな付加価値をお客様に提供できるのであればと考えたら、少し考え方が変わつてきましたね」

また田中さんは大川商工会議所青年部にも所属され、木のきもち部会にも本年度は副部長として参画されています。「木のきもち部会では、大川のお土産品の開発を通して、大川のPRを行う事業をしていきましたが、近年では大川市をPRしていくことに変化が出てきました。特に東京など大川市近隣の方にPRしていくことが増えて来ましたね。近隣にお住まいの方へ大川に来てもらえるような商品の開発やイベントの企画も行つていきます。8月には大川テラツアで木のきもち部会が計画したワークショップを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止による緊急事態宣言が発令されたため、中止の決断をしました。感染症

が落ち着けば、また開催したいと思つていきますので、ぜひ参加していただきたいですね」

また今年の春の緊急事態宣言発令時には、大川エール飯事業にも携わられたとのこと。「ウーバーイーツみたいなテイクアウトの大川エール飯事業は、発起人として立案から、ウエブショップの実装まで、無償で大川観光協会さんのお手伝いをさせて頂きました。このコロナ禍で地域の為に、自分が得意な事、出来る事で良い方向に進むようお手伝いできたらいなと思つています。他にも最近だと、酒見にある旧JA福岡大城の場所をリニューアルするにあつて、※ディレクション業務・KAGUHAUS（カグハウス）のロゴや空間デザインなどの仕事をさせて頂きました。今回の仕事は、お世話になつていらっしゃる方々のご縁をつなぐ事もできました。併設しているテイクアウト専門のSTUMPCOFFEE（スタンプコーヒー）も、私の仕事です。ぜひ大川市民の方にも、KAGUHAUS敷地内の芝生のあるデッキの席で、珈琲を楽しんでいただきたいです」

様々なモノ・コトを形にされてきた田中さん。そんな田中さんがいま思ひ描く夢についてもお伺いしました。

「私自身大川出身で、現在は大川のお客様を中心に仕事をしています。お客様からは『都会で仕事をした方がいいんじゃない？』とお声掛けいただくこともあります。今は地元というコミュニケーションのなかで、一人ひとりの田中孝を知ってもらい、人となりを見て仕事を頂いてる気がしています。それも大事だと思つていますが、何かしらの仕事を通して、その結果を見た、全く関わりのない方からも仕事の依頼がもらえるようなデザイナーになりたいですね。例えば、顔も知らない方から『田中さんのデザイン好きなんです』って声をかけてもらえるような。」

それから今は、地元地域での民泊施設のプロデュースを計画しています。大川の木工技術をふんだんに注ぎ込んで、内装にこだわった民泊施設です。民泊と聞くと、古民家の一軒家だったり、アパートやマンションの空き部屋に泊まれる、ようなものが主流ですが、高級ホテルの一室がそこにあるような、そこに行かなければ体験できない空間を作つて、心に残る思い出を作つて欲しいです。全国から大川を訪れるデザイナーなどに向けて、大川を一杯PR出来る、そんな空間を作りたいですね。協力頂ける方、募集中です（笑）」